

令和2年度 学校評価報告書

宮城県立支援学校女川高等学園

1 教育目標

一人一人の人格と個性を尊重しながら，生徒の特性に応じた適切な職業教育を行い，自己の持つ能力や可能性を伸ばし，社会的・職業的に自立できる心身ともに健康で，誰からも愛される生徒を育成する。

<今年度の努力事項>

- (1) 生徒一人一人の自己選択や意思決定を大切にし，生徒のキャリア形成に視点をあてた学習活動や進路指導の充実を図る。
[ハードスキルの獲得]
- (2) 生徒の規範意識の向上と社会の一員としての自立と共生の心の涵養に努める。
[ソフトスキルの強化]
- (3) 地域の良さを理解し，地域に貢献できる生徒を育成する。
- (4) 特別支援学校のセンター的機能の一翼を担う立場として，情報発信と特別支援教育の理解啓発に努める。
- (5) 地域と共に学ぶ防災教育の充実に努め，生徒・保護者・地域にとって安全・安心な教育環境を確保する。

2 全体分析について

全体分析は，以下の基準でABC評価し分析を行いました。

評価	基準
A評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が80%以上
B評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%以上～80%未満
C評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%未満

【分析】

評価者	項目数	A評価	B評価	C評価
生徒	32	28	4	0
保護者	37	37	0	0
職員	39	38	1	0

【考察】

生徒，保護者，職員の三者において，**全体的な評価としては肯定的な結果**が得られました。各評価者の肯定的評価の平均は，**生徒86.9%**（R1：77.2%），**保護者93.8%**（R1：96.1%），**職員96.3%**（R1：92.4%）でした。生徒と職員の評価では，約10%の差が見られ，指導する側と指導を受ける側の捉えや受け止め方が異なっている状況が考えられました。生徒側の視点を踏まえた指導と対応を今後さらに意識していく必要があることを教職員で確認しました。

3 質的分析について

全体分析結果の肯定評価A・B（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%以上）について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合に着目し、肯定評価の質的な分析を行いました。分析においては、「そう思う」の割合を基準としました。

評価	基準	今後の対応
積極的肯定	「そう思う」40%以上	継続
消極的肯定	「そう思う」30%以上～40%未満	課題として検討
要改善	「そう思う」30%未満	重要課題として改善が必要

【分析】

評価者	項目数	積極的な肯定評価	消極的な肯定評価	要改善評価
生徒	32	30	2	0
保護者	37	37	0	0
職員	39	34	3	2

【考察】

生徒、保護者、職員の三者が、共通して消極的な評価とする項目、要改善とする項目はありませんでした。また、消極的な評価となった項目数も昨年度より減少の結果が得られました。（生徒評価－10、保護者－2、職員－4）。要改善評価となった項目についても今年度は2項目で、昨年度の評価から改善が見られました。（生徒評価－4、職員－1）

生徒評価において、消極的な肯定評価となった項目は、「1 充実した学校生活を送ることができている」「16 学校は、福祉サービスや相談事業所など卒業後の生活に必要な情報を提供している」でした。6月までの臨時休業や新しい生活様式により、活動が制限された状況が影響していると考えられます。また、社会情勢からの進路に対する不安により、卒業後の生活についての関心や意識が高まったと考えられました。生徒の学校生活の充実につながるよう、新しい生活様式の中で、できることやどうしたらできるかの視点で工夫をしていくこと、将来への不安軽減につながるよう情報提供をしていくことが必要であることが明らかとなりました。

職員評価において、消極的な肯定評価となった項目は、「10 学校は、挨拶やマナー、ルールを守るなどの基本的生活習慣について指導を行っている」「24 PTA活動は、学校職員や保護者同士の交流の機会になっている」「25 学校は地域との交流やボランティア活動についての情報を学校だより等で保護者に伝えている」でした。また、要改善項目は、「11 学校は、生徒会活動や部活動など生徒が積極的に活動できるように取り組んでいる」「21 学校は地域と連携し防災教育や安全教育を行っている」でした。生徒の主体性の伸長と指導の系統性の視点、共通理解による指導の必要性が明らかとなりました。また、新しい生活様式における保護者や地域との交流の機会、あり方が課題となることが確認できました。地域と連携した防災教育については、感染予防の情勢から地域の方の参加が難しい状況であったことが評価に影響したと考えます。感染予防を踏まえた避難所運営や台風による災害の想定などこれまでと異なる観点からの訓練を実施できたことの成果は大きく、「2020年 ぼうさい甲子園」においてグランプリ受賞につながりました。

4 改善策

(1) 生徒の主体的な学び、充実した学校生活に向けた取組について

令和4年度からの新学習指導要領による学習指導を踏まえ、系統的、横断的な学習活動と教育課程の段階的な見直しを行っていきます。

①地域理解、防災教育の観点に関連付けた校外学習等を計画、実施していきます。

1 学年…学校・寄宿舍生活始める女川町を知り、震災被害と復興の実情に触れる。

2 学年…宮城県にある震災遺構を見学し、伝承に携わる人々とかかわる。

3 学年…1, 2 学年での防災への取組の集大成として、総合防災訓練を主導する。

※令和3年度より段階的に計画、実施していきます。

②生徒会活動、部活動については今年度、部活動に係る活動基本方針、部の設立や廃部の規定、部活動登録のシステムについて見直し、整理を行いました。今後、校内で共通理解を図り取り組んでいきます。

生徒会活動については、年間の活動計画を整理し、生徒が主体となって取組めるよう内容の工夫やLHR等とのスケジュールを検討していくことを確認しました。

③基本的な生活習慣の指導については、学校や学年で指導の重点を明確にし、共通理解のもとに指導に当たることを検討していきます。

(2) 福祉サービスや相談事業所など卒業後の生活に必要な情報を提供について

①支援部と進路指導部が連携し、進路だよりを活用した福祉サービス等の情報提供に努めます。

②進路指導充実事業や研修会等のお知らせ、進路相談等の充実努めます。また、教員の専門性向上のための研修を実施し、指導力の向上に努めます。

(3) 保護者への情報発信、交流等について

①ホームページやフェイスブックにより情報発信を行っていることの周知、広報に努めます。

②学校だよりの内容の充実を図り、生徒の活動の様子を発信に努めます。

③PTA活動については、本部役員会、各専門委員会と連携を図り、新しい生活様式の中でできることの視点から活動内容や交流の機会を確保できるよう検討していきます。

5 その他

(1) 生徒、保護者の方々から自由記述に記載いただきましたご意見については、今後の学校運営の参考にさせていただきます。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応についてのアンケートに回答いただきありがとうございました。いただいた御意見を基に、今後も感染症対策に努めてまいります。